

コラム：音読というスキル

小学生の頃、音読の宿題があった。母の前で国語の教科書を声に出して読み、チェックシートに母のサインがたまっていくのが嬉しかったものだ。何度も読んだせいかいまだに覚えているものがある。繰り返した内容はするすると脳からあふれ出る。好きな曲を空で歌えるのも、何度も聞いて歌うからだろう。

私は大学でフランス語の授業をとっていた。慕っていた塾の先生がフランス語専攻だったことと、話せたらかつよさそうという単純な理由からフランス語を選んだ。しかしさっぱり意味が分からない。知らない言語を目の前にすると私はベイベー同然だった。辞書を読むのも億劫になるほどのレベルだったので、授業の復習をし、CDを真似ながらただひたすらに教科書を音読していた。音を覚えたら書く練習もした。そのおかげか、フランス語のテストはすべて満点だった。授業と音読だけでここまで定着するのかと驚いたものだ。こんなに単純なら、高校生の時にしっかり英語を音読しておけば、もっと早く英語嫌いを克服できたのだろうと思う。

先日、東進ハイスクール英語講師 今井宏先生の「さあ、音読だ」という本を手にした。なんと表紙には『英語の成績を伸ばす一番簡単な方法…それは「音読」です。』と書いてある。私はまんまと謳い文句に踊らされ、買って帰った。筆者は大学受験期に先生から音読を勧められ、すがる思いで音読し続けた。はまりにはまって、しまいには古典や日本史なども音読し始めたそうだ。本書の中には、筆者が音読を続けたおかげでE判定だった難関大学に合格したエピソードが取り上げられていた。ここだけ切り取ってしまえば美談で終わるが、力を伸ばすためにはコツコツ取り組むことが必要なことは言うまでもない。

筆者は「シンプルに続ける」ことを重視している。音声や内容を考えながら音読するのではなく、まずは音読癖をつける。音読する回数ではなく費やす時間を決める。その時間内で読める量が増えていけば上々である。シンプルに声に出して読むだけでいい。筆者は、やる気を継続させるために、**音読した回数分そのページにスタンプを押すこと**を推奨している。スタンプがたまれば「これだけ自分は頑張ったのか！」と一目瞭然でわくわくするらしい。子供だましかと思うなら、一旦だまされて、次の登校予定日までの3週間取り組んでみよう。なぜスタンプでなければならないのかに興味があれば、本書を読んでみるといい。

音読習慣ができれば、舟入生にはぜひ以下3点を抑えて音読してほしい。①単語の正しい発音 ②リエゾン(子音と母音の連結) ③意味ごとのポーズ を抑えた音読を目指すのはなかなかやりがいがある。音声面で悩んだらCDで確認しよう。興味があれば、録音して自分の音読を聞いてみても面白い。まずは、こだわりすぎずにただ声に出して読む。その先で、舟入生はそれぞれレベルアップできるだろう。

Whether you think you can, or you think you can't, you're right. (Henry Ford)

-----How to 音読-----

教材：教科書、週末課題の英文、著名人のスピーチの原稿など身の回りにあるものなんでもOK。

すでに本文の内容を理解しているものを選んで、同じものを何度も読もう。

目標：一定のスピードで読むことを心がけよう。

センター試験を80分で解くためには120WPM(=words per minute)あれば十分である。教科書の内容であれば、ゆっくり音読しても100~120WPMは達成できるだろう。あとはそのスピードで理解できるようになれば、自然と速読になる。「うそだ～」と思う人は自分の音読のWPMを計ってみるといい。

コツ：楽しんで続けること。勉強の合間の息抜きや、隙間時間を活用して続けていこう。

注意：早口言葉を目指しているわけではないので、丁寧に読むべし。